

佐渡海峡横断計画を終えて

新潟大学探検部第 40 代部長 鈴木 雅史

このたびの佐渡海峡横断計画の最大の目的は、「探検の精神とは何か」という疑問に立ち返り生まれたものです。そこで、探検部設立当時の報告書などを見直す中で、1981 年に実施された佐渡海峡横断が目に残りました。

偉大なる先人たちの功績により、現在の地球において探検をし、新たに発見をするということは少なくなっています。全国の探検部同志の活動を見渡しても、新潟大学探検部も例に漏れず、近年はよりスポーツ志向が高まっているのが現状です。探検におけるパイオニア精神に基づく登山やアルパインクライミングのバリエーションから派生して生まれたスポーツクライミングがオリンピック競技として認定されたことから、世間においてかつては日常生活とかい離されていた行為がより一般化されていることは明らかです。類似のこととして、探検部内よりラフティングの世界大会に出場し、活躍せんとする部員が排出されることも喜ばしいことです。

そのような現状において、当計画は今一度探検部の設立の意味を考え直すきっかけとなりました。

2015 年度にも計画し、海上保安庁からも学生支援課からも許可をもらっていたが、天候不順のため中止。昨年は実施予定日が 8 月 24 日だったため、お盆過ぎの海は秋の海ということで、水も冷たく波も荒れることが多くなるそうである。そのような反省に基づき、本年度は 8 月 9 日に設定。念のため予備日として 10 日も用意。9 日は強風のため漁師との協議の結果順延。結果として、10 日に実施。4 時に五十嵐浜近くの新川漁港を漁船で出発、6 時に佐渡に着きボートを膨らませて出発。想定 14 時間（1981 年の計画を参照）を大きく縮め、13 時過ぎには五十嵐浜に到着。かかった時間は 7 時間ほどでした。この日は風も弱く、波もほとんど凪いでいました。漁船に先導してもらったためルートは迷うことなく、漕いでいる時間は 4 人ないし 6 人で、交代の時間は漁船の上から仲間を励ましあいました。水も食料も十分すぎるほど持っていきました。

参加メンバーは、14 名のうち 1 年生が 4 人、2 年生が 1 人、3 年生が 6 人、4 年生が 1 人、5 年生が 1 人でした。はじめはみるみるうちに佐渡を離れていきましたが、新潟にたどり着くまでは体感的には遠かったです。角田山と弥彦山が見えるなか、徐々に朱鷺メッセの展望台が見え始めたころ、虹が山にかかったり、イルカが群れで出てきて船のそばを通ったりと、奇跡のようなことも起きました。

レースラフティングだけでなく、スポーツクライミングなどのみでなく、今後も探検精神を忘れず挑戦していこうと今一度考えるきっかけとなりました。また、新潟大学探検部の 40 周年に花を添えられました。